

### 3. 幼児の食事についての生態学的検討

#### —特に肥満傾向児，やせ児について—

島山 富而（岩手医科大学小児科）

はじめに

近年，離乳食から幼児食に至る食事習慣は，食事行動，食品選択性，さらに嗜好と生理リズムの恒常化と生涯の食事生態にライフスタイルを形成すると言われており，この時期の食事生態が健康生活，保健の上からも重大な意義を持っていることが指摘され，その上将来の成人病との関連は，幼児成人病という考え方も生むに至った。このような考え方に基いて，とくに肥満傾向児，やせ児の食事について生態学的状況を調査したので報告する。

#### 1. 調査方法

調査方法，調査対象は前記と同様であるので省略する。調査アンケート内容の項目は，

##### ○お子さんの食事について………

- (1) お子さんは誰と食事をしますか，また食事に要する時間はどのくらいか，朝・夕について質問している。
- (2) お子さんの間食について………与え方と理由について質問し，さらに間食食品5つをあげさせている。
- (3) お子さんは食品や料理について〔好き嫌い〕がありますか。………そして
- (4)好きなものと嫌いなものについて，食品3つ，料理3つを順位をつけて書かせている。
- (5) お子さんは次の食品，すなわち，ごはん，パン，めん類，ラーメン，スパゲッティ，砂糖，ジャム類，いも類，肉類，ハム，ソーセージ，魚類，魚加工品，豆腐・納豆，ガンモドキ・油揚，卵，バター，マーガリン，マヨネーズ，牛乳，乳製品，青菜，人参，ピーマン，キュウリ，トマト，キャベツ，ネギ，菓子，果物，清涼飲料水など毎日か，週何回かと摂取回数を質問している。

#### 2. 調査結果（主なるものを記すと）

- お子さんの食事について，肥満児（傾向児を略す）の早食い，やせ児の遅食い，間食においては，やせ児が欲しがるとき，肥満児は自分勝手，買食いが目立った。間食を与える理由の項では，やせ児のお母さんはインテリの神経質で干渉型が推察された。
- 間食としてよく食べるものでは，肥満児は米類，めん類，パン類，ジュースが多く摂取され，やせ児は乳製品，あめ，ガムの摂取が多く見られた。しかしアイスクリームは肥満児，

ケーキはやせ児と細かい食品別では従来言われているごとき状況であった。

- 食品や料理の好き嫌いでは、やせ児に好き嫌いの傾向が強く認められた。肥満児で好きな食品はメン類、肉類、卵、やせ児では魚類、豆類、乳製品、菓子、果物類であった。嫌いな食品では肥満児・やせ児とも野菜であり、ピーマン、人参、ねぎが主なるものであった。
- 好きな料理については、肥満児では食品の項同様、米飯類、メン類、パンが好きで、さらに肉類は肥満児・やせ児とも高率を示した。卵料理は肥満児の方がやせ児より高率であった。好きな料理の3つをあげると肥満児、やせ児とも、第1位はカレー、第2位、ハンバーグ、第3位焼き肉であった。
- 嫌いな料理については、肥満児は記入なしが45%、やせ児は37%見られた。やせ児の中には米飯類、メン類、パン類が肥満児に比して高率であった。野菜料理は肥満児・やせ児とも、さらに、あえものも両児の嫌いな料理であった。
- お子さんは食品についてどんな食べ方をしているかでは、米飯は肥満児、パンはやせ児がやや高率、砂糖はやせ児が多く、肉はやせ児が高率、ハムもやせ児が高率、バターもやせ児牛乳もやせ児、乳製品もやせ児が各々高率の摂取を示していた。その他、キュウリ、菓子、ジュースなどもやせ児が高率であった。
- カウプ指数20以上の肥満男女児

先記せる一般肥満傾向児とカウプ指数20以上の肥満児と比較して見ると、食事行動、食品料理の各選択は、さらに特徴的傾向は鮮明となり毎日食べている食品の種類も多く、肥満に直接関係する食品嗜好を示していることが明かとなった。量的調査の不備を補って十分考察できる結果であった。

以上、肥満傾向児、やせ児およびカウプ指数20以上の肥満児の食事行動、食品選択性を見ると父母の養育行動を背景として、肥満群、やせ群ともに嗜好を含めて片寄りがあり、さらに食構成上からも、組成内容の面からもアンバランスであり、従来、言われていたごとく肥満児は主食を中心とする糖質、ジュース、肉類の過剰摂取傾向、やせ児は加工肉類、肉類乳製品などの動物性蛋白質の過剰摂取、アメ、スナック類などの過剰摂取と嫌いな食品、嫌いな料理の多いことが顕著であった。

これらの改善については、幼児の特殊性を踏まえて生活行動、運動など環境因子に十分な配慮を行い、父母を含めて家庭改善の中で長期的に無理なく進めてゆかなければならない。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

近年,離乳食から幼児食に至る食事習慣は,食事行動,食品選択性,さらに嗜好と生理リズムの恒常化と生涯の食事生態にライフスタイルを形成すると言われており,この時期の食事生態が健康生活,保健の上からも重大な意義を持っていることが指摘され,その上将来の成人病との関連は,幼児成人病という考え方も生むに至った。このような考え方に基いて,とくに肥満傾向児,やせ児の食事について生態学的状況を調査したので報告する。